

# 北八代プロジェクト

安枝英俊

キーワード：作品，交流，北八代地区，集会所

## 1. はじめに

姫路市北八代地区では、2016年に自治会集会所が竣工し、様々な地域活動が実施されてきた。しかし、2020年のコロナ禍以降、秋祭りや納涼祭をはじめとする自治会行事が中止になるなど、これまでのように地域活動を実施することが困難な状況になっており、住民が交流する機会が減少している。

本プロジェクトでは、2022年度から地域連携を再開するにあたり、手芸や絵画など、自らの知識や技能をいかして制作した作品を介して、住民らが交流する機会を生み出す方法について検討した。

## 2. 前面道路に面する倉庫の増築案の検討

2022年3月から、敷地南側の前面道路に面する場所に倉庫を増築する計画が始動した。計画にあ

っては、収納スペースを十分に確保することと、集会所から発生する活動音の防音壁として機能することが求められた。

現在の集会所は、前面道路から約15mセットバックしているため、室内で作品展示をしても通りすがりに見ることが難しい。

そのため、通行人が作品の存在に気づき、少し立ち止まって作品をみるができるように計画した。なお、建築資材の価格高騰の影響をうけ、集会所の計画については、現在中断している。

## 3. 作品を介した交流につながる展示方法

作品を介した交流につながる展示方法を検討するにあたり、作品を展示するだけでなく、作品を制作する際に、工夫した点、苦勞した点、気に入っている点など、作者の制作意図を展示することや、作

	a.2階にブリッジを設けない	b.2階にブリッジを設ける	
		b-1.建築面積を抑える	b-2.軒下と1階ステージを広くとる
1階平面図			
2階平面図			
南側パース (道路側)			
北側パース (集会所側)			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーニングがある分、北側へセットバックする必要があり、前面面積が小さくなってしまいます。</li> <li>2階倉庫ははしごで直接ドアから入ることになるため、荷物の出し入れが危険である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブリッジがあることで2階倉庫の荷物の出し入れが安全である。</li> <li>前面の入り口をセットバックすることで、1階ステージの面積が小さくなってしまいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブリッジがあることで2階倉庫の荷物の出し入れが安全である。</li> <li>倉庫面積を南北に伸ばすことで1階ステージを広く確保できるが、前面面積が小さくなってしまいます。</li> </ul>

図1 倉庫の増築案の検討

品をみた住民からのコメントを得られることが必要であると考えた。こうした展示の方法は、令和4年8月に、豊岡市の国府地区コミュニティセンターで開催した作品展「つくるよろこび」を実施した経験をいかして検討した。

国府地区で作品展を企画した際、「自らの作品は他者に披露するほどのものではない」と考える住民もいることがわかり、住民である作家、コミュニテ

ィセンターの運営主体、大学研究室が、開催目的を十分に議論し、共有する必要があることを学んだ。

北八代自治会集会所における作品展については、老人会である「笑和クラブ」の折り紙教室の参加者らと、2023年3月中の開催を目指して検討している。作品展では、折り紙の楽しさを伝えるワークショップなども開催し、住民が自らの知識や技能の価値に気づく機会となることに期待をしている。

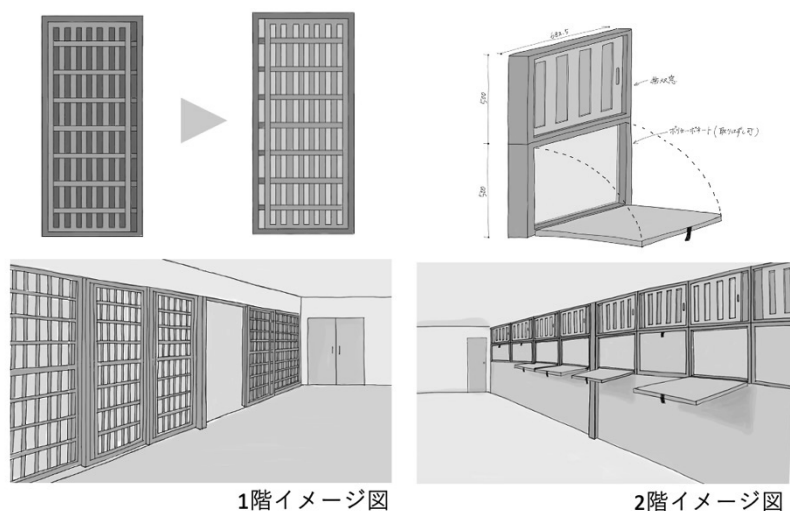


図2 無双窓を用いた建具の提案

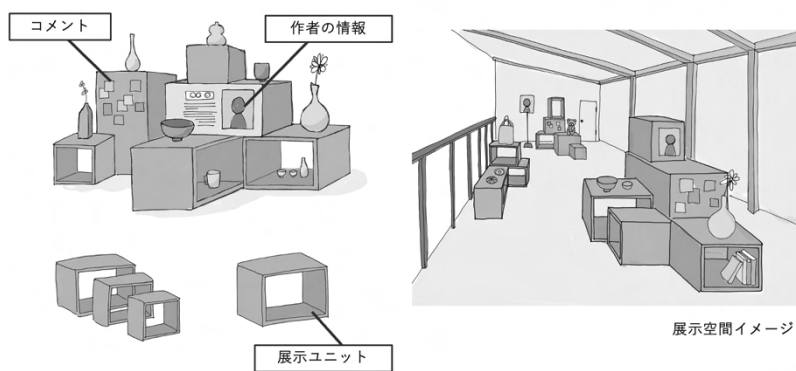


図3 倉庫の一部を利用した展示空間の提案